

白旗克志 (SHIRAHATA Katsushi)

グループ長補佐 博士 (学術)  
1971 山形県生まれ  
1999 農林水産省採用  
2012 農研機構 農村工学研究所に転籍  
2016 農研機構 農村工学研究部門  
2021 水利工学研究領域 流域管理グループ



地下水観測孔の水位測定作業

研究者の横顔

10年半前の本欄に載せた写真の中に居た、小さな息子とそのいとこ達は、今は大学院に進学してたり就職してたり子供がいたりで、自身の状況があまり変わっていないこともあって感慨深いです。行政機関に勤めていた間は一ヶ所1年から長くても4年で異動していたので、勤務先としては今居るところが最も長くなり、居住地としても今の街が実家に次ぐ長さになりました。

<仕事に慣れてよかった話>

同じテーマの研究を続けていると、関連する現地調査などの作業にも習熟して失敗が減り、作業効率が上がります。論文作成作業にもまあまあ慣れて、何年か前に博士になれました。

また、同じ地域で現地調査を中心とした研究を長くやっていると、地域の行政機関や地元の方から技術的な助言を求められる機会が増えてきます。その現場に入り始めた頃は「地元にいる皆さんのほうがよく知っているはず」と思いましたが、今ではその地域の地下水については自分が一番長く見ている状況になり、役立つ助言が出来ていそうと思う時もたまにはあって、嬉しく思います。

ここ数年は他機関と共同の研究課題のまとめ役を先輩から引き継いでやっていて、それも当初は自分には難しそうと思いましたが、年ごとに慣れて失敗が減ってきました。無理そうなことでも長くやるうちに自分の成長につながることを実感する機会になりました。



地下水観測技術の実演・説明会

<慣れるのがいいのか分からない話>

同じことを繰り返していると慣れて上手になりますが、ある程度からは進歩が遅くなります。人の役に立てる状況にあるという点ではそれでもいいのですが、自身の成長の機会が無いのではとか、同じことを楽に出来るようになるので怠け者になるのではとか、思ったりもします。やっている研究作業が楽しいことも、こんな苦労知らずのまま年を重ねているのは自分にとっていいことなのか、と考える理由になります。そういう意味では、時々違う職場に異動して、初めての仕事や楽ではなさそうな仕事をやってみることも、いいことかもしれません。(また楽しい研究作業の現場に戻れる前提で・・・)